

中国のやきもの!?

じつは、東京国立博物館の「琉球資料」のなかに中国磁器が含まれています。なかでも、蓋マカイ (No.18)、小盃 (No.19) は、清朝の景德鎮窯で焼かれた優品。精緻なつくりで驚かされます。これらは、中国との直接的な往来があった琉球王朝の歴史を裏づけるものであり、じっさいに首里城からは江戸時代の日本にはほとんど流入していない、きわめて上手の清朝磁器の出土が報告されています。



銘「咸豊年製」 銘「道光年製」

18 蓋マカイ (粉彩鹿鶴文蓋付碗・五彩瓜蝶文蓋付碗)
Lidded Bowls 中国・景德鎮窯 清時代・19世紀



17 青花唐草文蓮華
Spoon
中国 清時代・19世紀

16 スールー (青花渦文皿)
Plate
中国 清時代・18~19世紀



19 小盃
(粉彩葉菜文杯)
Liquor Cup
中国・景德鎮窯 清時代・19世紀

なまえの意味と由来
アンピン：「按瓶」と書き、琉球王朝で高位の身分にあたる「按司」にまつわる器ともいわれます。
カラカラ：中に陶丸が入っていて空になると「カラカラ」と鳴ったからという説や「貸して貸して」の方言という説などがあります。
セージャラ：皿のことです。ほかに「ケーウチ」「スールー」などといいますが呼び分けについては明瞭ではありません。
チューカー：鹿児島と沖縄では「チョコカ」とも呼ばれ、「茶家」「耐家」「酒家」とも書きます。
マカイ：碗のことです。
ワンプー：鉢のことです。

作品リスト

No.	名称	製作地	時代	員数	備考	列品番号
1	カラカラ (色絵線刻格子文水注)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1口	K-25946
2	チューカー (色絵線刻丸文水注)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1合	河原田盛美氏寄贈 K-26026
3	ユシピン (緑釉瓢形瓶)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1口	G-3964
4	アンピン (緑釉把手付水注)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1合	K-25949
5	セージャラ (色絵花文小皿)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	2枚	G-3966
6	セージャラ (色絵牡丹文小皿)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	2枚	G-3961
7	セージャラ (色絵松竹梅文輪花鉢)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1口	G-3960
8	マカイ (色絵梅花文碗)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	2口	G-3965
9	セージャラ (緑釉蓮葉形小鉢)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	2口	G-3963
10	小盃 (色絵・緑釉・藍釉小盃)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	10口	H-3585
11	チューカー (色絵蟹文水注)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1合	K-25948
12	チューカー (藍釉線刻渦文水注)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1合	K-25947-1
13	チューカー (色絵梅竹文水注)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1合	K-25947-2
14	チューカー (藍・褐釉突起文水注)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18世紀末~19世紀	1合	K-25947-3
15	ジンガーマ (厨子甕)	沖縄本島	壺屋焼	第二尚氏時代・18~19世紀	1合	堤里志氏寄贈 K-39131
16	スールー (青花渦文皿)	中国	清時代	18~19世紀	1枚	K-25957
17	青花唐草文蓮華	中国	清時代	19世紀	1口	G-3967
18	蓋マカイ (粉彩鹿鶴文蓋付碗・五彩瓜蝶文蓋付碗)	中国・景德鎮窯	清時代	19世紀	2合	K-25953
19	小盃 (粉彩葉菜文杯)	中国・景德鎮窯	清時代	19世紀	1口	K-25954
参考図版	ワンプー (白・黒釉鉢)	沖縄本島	第二尚氏時代	19世紀	1口	K-25956

・図版の作品番号は、作品リストの番号と一致する。

展覧会情報

日本民藝館では、2019年6月25日(火)から9月1日(日)まで「食の器」展が開催されています。沖縄の陶器も出品されます。ぜひご覧ください。

日本民藝館

▶京王井の頭線「駒場東大前駅」西口徒歩7分

参考文献

- ・三笠景子「『作品紹介』蓋マカイ」[MUSEUM] 680号、東京国立博物館、2019年
- ・「東京国立博物館図版目録 琉球資料篇」東京国立博物館、2002年
- ・「平成10年度企画展 沖縄のやきもの—南海からの香り—」佐賀県立九州陶磁文化館、1998年

本特集の開催にあたり、佐賀県立九州陶磁文化館、日本民藝館よりご協力賜りました。深く感謝申し上げます。



やちむん—沖縄のやきもの

2019年6月25日発行

執筆：三笠景子、撮影：藤瀬雄輔、翻訳：レベッカ・ハーモン (以上、東京国立博物館) / デザイン・制作・印刷：精興社 / 編集・発行：東京国立博物館 ©2019東京国立博物館

特集

やちむん —沖縄のやきもの

2019年6月25日(火)~9月16日(月)
東京国立博物館 本館14室



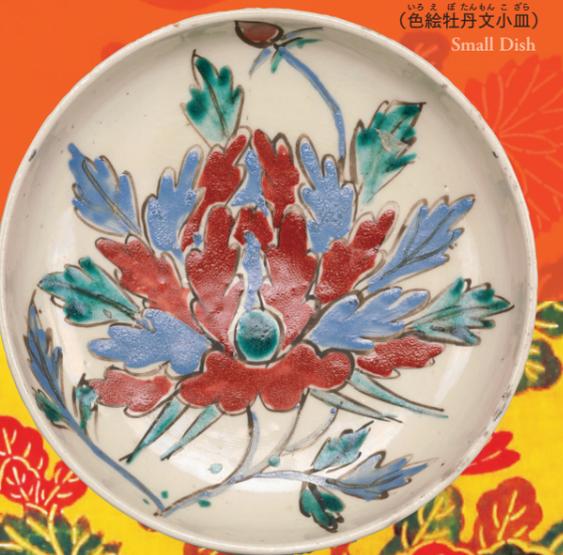
11 チューカー (色絵蟹文水注)
Pot for Liquor or Tea with Spout

Thematic Exhibition Yachimun Okinawan Ceramics

Tuesday, June 25 - Monday, September 16, 2019
Room 14, Honkan, Tokyo National Museum

The Tokyo National Museum has over twenty pieces of Okinawan ceramics in its collection. The Museum acquired these pieces through private donation and through the Meiji government's purchase of Ryukyu artifacts from Okinawa in 1885.

This exhibition includes excellent examples of the overglaze enamels that were widely used in Okinawa from the end of the 18th century to the 19th century—including rare examples of a vivid blue overglaze. Most of these ceramics were fired at the Tsuboya kilns in central Naha. In addition, recent conservation activities have revealed that some of the “Ryukyu artifacts” purchased in 1885 actually bear reign marks showing they were made in China during the Qing dynasty. This exhibition invites visitors to view Okinawan ceramics alongside the Chinese ceramics prized and passed down by the Ryukyu people.



6 セージャラ
(色絵牡丹文小皿)
Small Dish

壺屋焼の歴史

那覇市の中心地に位置する壺屋一帯では、「荒焼(アラヤチ)」と呼ばれる焼締陶器と、「上焼(ジョウヤチ)」と呼ばれる色絵陶器の2種類のやきものがつくられていました。17世紀後半、尚貞(11代琉球王、在位1669~1709)の治世のもとで生産は本格化したと伝えられますが、力強く華やかな装飾が魅力の「上焼」はおもに18世紀後半から19世紀に開花したものです。



3 ユシビン (緑釉瓢形瓶)
Liquor Bottle
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀

独特の色とかたち

壺屋焼最大の魅力は、独特の釉にあります。とりわけ目をひくのは、銅を呈色剤に用いた「オーグスヤー」と呼ばれる緑色の釉でしょう。吸い込まれるような深さがあり、ところどころに生じた藍色の窯変も花を添えています。

また、「カラカラ」「チューカー」「ユシビン」など、酒器もバラエティーに富んでいます。独特のかたちもさることながら、筆による絵付けのほか、線刻や印花(スタンプ)、釉の流し掛けなど、さまざまな技法を駆使した装飾も目に楽しいものです。

そして、かつて沖縄には洗骨を入れて墓室に納めるという独特の埋葬方法がありました。その陶製の蔵骨器を厨子甕「ジンガミ」といい、筒形、壺形のものほかに、貼付けや釉で豪華に彩られた御殿形をしたものが知られています。



15 ジンガミ (厨子甕) Cinerary Urn
沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18~19世紀 堤里志氏寄贈



1 カラカラ (色絵線刻格子文水注)
Liquor Pot with Spout
沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18世紀末~19世紀

10 小盃 (色絵・緑釉・藍釉小盃)
Liquor Cups
沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



まるで人形遊びのままごとに使われるような、ごく小さな盃。一つ一つ丁寧に絵付けがなされています。

12 チューカー (藍釉線刻渦文水注)
Pot for Liquor or Tea with Spout
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



チューカーは茶や酒を入れたもので、底に三つの脚がつきます。共通して用いられている珍しい水色の上絵具が印象的です。



14 チューカー (藍・褐釉突起文水注)
Pot for Liquor or Tea with Spout
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



13 チューカー (色絵梅竹文水注)
Pot for Liquor or Tea with Spout
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



2 チューカー (色絵線刻丸文水注)
Pot for Liquor or Tea with Spout
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀
河原田盛美氏寄贈
類例が東京・日本民藝館に収蔵されています。河原田盛美(1842~1914)は政府から琉球へ派遣された内務省の官吏。沖縄の殖産興業に貢献した人物の一人です。



4 アンピン (緑釉把手付水注)
Water Pot
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀
アンピンは釜に水を足すための器。肩から大きな把手が伸び、底には高台がつきます。



11 チューカー (色絵蟹文水注)
Pot for Liquor or Tea with Spout
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀
蟹と雁のような鳥、ぞとして葦が描かれています。類例が沖縄県立博物館・美術館に収蔵されています。



参考図版
ワンパー (白・黒釉鉢)
Bowl
沖縄本島
第二尚氏時代・19世紀



5 セージャラ (色絵花文小皿)
Small Dishes
沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



6 セージャラ (色絵牡丹文小皿)
Small Dishes
沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



7 セージャラ (色絵松竹梅文輪花鉢)
Bowl
沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



8 マカイ (色絵梅花文碗)
Bowls
沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18世紀末~19世紀



9 セージャラ (緑釉蓮葉形小鉢)
Bowls
沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18世紀末~19世紀
吉祥の植物である蓮の葉は人気のモチーフ。器全体で蓮葉をかたどっています。

東京国立博物館所蔵「琉球資料」について

東京国立博物館には350件にのぼる「琉球資料」が収蔵されており、現在本館16室「アイヌと琉球」において展示・公開されています。その中核を担うのが、明治17年と翌18年に沖縄県から購入した一群です。明治15年にベルリン民族博物館(当時)から日本政府への琉球資料送付の依頼があったことが契機となり、ドイツへ送付するものとは別に収集されて、東京へ送られたのが今日東京国立博物館に残る一群と考えられています。残念ながらその後の過程で失われたものもありますが、トーハクの「琉球資料」は絵画、古文書、工芸、古写真など多岐にわたる貴重なコレクションです。